

【会議名】 隠岐地域保健医療対策会議 在宅医療部会

【日 時】 令和2年11月19日（木） 13：45～15：45

【場 所】 隠岐合庁6階大会議室等

【出席者】 島後医師会、島前医師会、隠岐病院、隠岐島前病院、
島根県老人施設協議会、隠岐管内各町村、隠岐広域連合等（*別紙のとおり）

【議事内容】

議題

- (1) 島根県保健医療計画（隠岐圏域編）中間見直しについて
- (2) 隠岐病院と隠岐の島町立診療所の医療連携体制検討状況について
- (3) 保健・医療・介護の連携を意識した業務展開について

【議題に対する主な意見】

(1) 島根県保健医療計画中間見直しについて【資料1】

→ 見直し作業スケジュール等について了承。

(2) 隠岐病院と隠岐の島町立診療所の医療連携体制検討状況について【資料2】

→ 隠岐広域連合・隠岐の島町より、医療連携体制検討委員会の開催状況、隠岐広域連合と隠岐の島町立診療所の運営主体の検討状況を説明

(3) 保健・医療・介護の連携を意識した業務展開について【資料3】

→ 健康寿命延伸プロジェクトの開始、隠岐圏域地域連携ハンドブックの更新等について説明

(4) 質疑応答

〈診療所や施設間での患者の情報共有について〉

・海士町では、まめネットを利用し福祉施設の看護師や医師、ケアマネジャー間での情報共有を行っている。

・西ノ島町では、月1回の地域ケア会議、月2回のケース検討で連携を取りながら課題を共有している。

・知夫村では、ケア会議やケース検討を定期的に行っている。

・病院・診療所・開業医間では紙ベースで紹介状のやりとりを行っていて、相談等行う際も紙ベースによる情報提供である。まずはまめネットなど、圏域内からだけでもインターネットを活用して情報共有できれば良い。

〈在宅医療について〉

・独居や身内のいない1人暮らし者については介護や医療だけでは在宅医療が困難である。

・隠岐の島町では、自宅での看取りが減少し、施設利用が増えているが、住民の方々に考えてもらう機会を設ける必要がある。

- ・ 隠岐病院では1年ほど前から、在宅医療を開始している。ACPについて、まだ浸透していないのが現状である。入院時に一度最期について見直すなど、話し合いの機会を設けることが大切だと考えている。
- ・ ACPの研修会は看護協会の委員に対して行ったが、住民も含めて研修会を行えば良いとは考えている。
- ・ 最期をどこでどう迎えるか、ギリギリまで迷う人も中にはいる。ACP やリビングウィルノートは、病院側から話ができるように啓発等が必要であると感じている。
- ・ 在宅の介護に関しては、家族の負担が大きいため施設もしくは病院で最期を迎えるという考えもある。在宅で最期を迎えられるよう、家族等介護者への支援が必要。
- ・ 在宅で最期を迎えると話し合っているが、患者の容体が急変すると救急車を呼ぶケースがある。消防本部としては、救急のプロトコールに沿って対応しているが、現場で患者が望んでいない処置をしなければならなくなり、救急隊員はそういったケースを懸念している。
- ・ 隠岐の島町には独居の高齢者が1900名ほどいるが、高齢者向け集合住宅が必要ではないか。
- ・ 島前3町村は海で隔てられているので一概には言えないが、海士町の在宅医療に関しては医師が365日島内にいれば対応可能。西ノ島町のショートステイを利用する家族もある。

〈人材確保について〉

- ・ 島後では開業医が若返りした（世代交代）。病院があるので、医療の質を求める人もおり、人口減少も要因となり開業医の必要性がなくなってくるが、世代交代しながら続けていきたいところではある。
- ・ 介護従事者の人材確保がここ5～6年では大きな課題となっており、隠岐広域連合では介護人材確保のための事業を立ち上げているところである。各町村や事業所とも連携しながら人材確保に取り組んでいきたい。
- ・ 介護施設職員の離職防止などにも取り組み、ハローワークでも掲載してもらっている。デイサービスの定員は50名だが、10名ほど定員を減らし、「断らない福祉」を掲げていたが、「断らざるを得ない福祉」となってしまう。施設は医療関係者の確保が難しいだけでなく、朝が早いということもあり、大変人材確保が厳しく、福祉崩壊・介護崩壊が始まるのではと心配をしている。
- ・ 老人福祉施設の医療従事者（看護師）の確保については手遅れだと感じている。連携という話が出ているが、連携ではなく兼業のようなかたちにしなければ、看護師が足りないという状況に陥り、施設は人員基準も非常に厳しいため運営できなくなる。
- ・ 介護保険が開始された当初は、サービスが選べるという話であったが、現在は職員が少なくサービスが受けられない人がいる。
- ・ 医師確保について、隠岐病院と診療所が一元化される計画があり、隠岐の島町として取り組む必要があると感じている。

〈健康づくりについて〉

・協会けんぽの医療費は今年3～5月では昨年より高額になっている。また、新型コロナウイルス感染症の影響で3～5月は健診が行われなかったりしたため、健診を遅らせた影響による病気の発生を懸念している。県民の健康に繋がるように、保険者としても積極的にプロジェクトに参加していきたい。

・看護協会隠岐支部では、毎年イベント型として健康づくりに則った健康相談等を行っている。今後も禁煙や糖尿病の予防など、住民の方々が健康維持に関心を持つよう健康づくりを謳っていきたい。

〈病診連携について〉

・病診連携の件が議会に9月に報告されたということだが、恐らく住民は何も知らない。住民にも理解を求める必要がある。

・病診連携は新たな体制になるので、診療所のあるべき姿、隠岐病院との連携を進めていくか議論し、地域の方々が不安にならないよう情報提供も行っていく。住民が安心して医療機関にかかれるようにすることが大きな目標なので、「聞いていない話だ」といった声が上がらないように随時情報を公表していく。